

○9番 礒元樹恵琉君

長峡中学校3年、礒元樹恵琉です。今回、私は、年々大型化していく災害に対しての避難について、質問したいと思います。

近年、日本各地で豪雨による災害が発生しています。行橋市でも、いつ、そのような豪雨になってもおかしくないですが、避難所への避難を余儀なくされた場合に、その避難所が川沿いや河口などの低い土地にあると、避難することをちゅうちょすることも考えられます。

最初の質問は、このような低い土地に多くの避難所があるという現状を、どう考えていますか。

○副議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

お答えを申し上げます。議員御指摘のように避難所に指定されている場所で、海拔の低い所がかなりあることは、私どもは十分承知しているつもりでございます。

ただし避難所というかたちで定めるときには、まず念頭に浮かぶのが頑丈な建物ということが、まず第1点に浮かびます。手っ取り早く言えば、鉄筋の入ったコンクリートの建物ということになるわけですが、そういった場合、通常、市内にある地区、地区に点在している建物の多くが、公民館や学校というのが現実になってきます。

したがって、まず一次避難所としては、低地で海拔が低くても学校や公民館が指定されているというのが現状であります。

そして、それはなぜかと言いますと、御存知のように行橋市は大きな川が3本流れていまして、そしてその3本の内の1つを、今川を中心にしたまちが歴史的に形成をされていったわけでありまして。これは行橋だけではなくて日本中、世界中どこに行っても文明というものは大体川沿いにできているものなんです。それは、かつては物を運送したり人を輸送したりするのが、川があったほうが便利で都合がいいということがあったり、荷物を集積するのに川があったほうが極めてうまくいく、簡単にいく、そういったような事情から、多くのまち、多くの集落といったものは川沿いに発達してきたという歴史的な経緯があるわけでありまして。

したがって、その原則通りに行橋市も、この庁舎も含めて今川沿いというまさに川の側につくられていって、この地区をある種の行橋市の中心部に現状もなっているということでありまして。

しかしながら、議員御指摘のように、少なくとも洪水だとか川が決壊するとか、もしそういうことが起きれば、極めて甚大な被害を与えかねないというのも、現実として我々

は強く認識をしていることでもあります。強く認識はしていますけれども、では、それを明日どうしよう、こうしようということは、残念ながら今のところまだ具体的に、こうすればいい、ああすればいい、というようなことは、残念ながら完璧な対策は打てておりません。

ですから、したがいまして、一番我々が気になっていまして、今川がいわゆる近年の集中豪雨に対してどこかで切れたりするようなことがないように、そのことに最大の注意を払って、もし台風が来たとき、あるいは大雨が降りそうなときは、職員全員がかかりでそのことの防止のために全力を挙げているということであるんですけども、なぜ高い所に置かないのか、という答えにはなっていないんですけども、現状が、この歴史的なまちの発展がそういうかたちで発展してきた、ということを理解いただきたいと思っております。

当然、今後新たに学校でも公民館でもいいんですけど、その他公的な施設をつくる場合は、当然そのことを議員御指摘のように、きちんとした高さを保つようなかたちでつくっていくということは当然やっていこうと思っておりますけれども、今あるものを一挙にひっくり返して高い所に持って行くというのは現実的ではない、ということで御理解をいただきたいと思っております。以上です。

○副議長 龍山咲良君

磯元議員。

○9番 磯元樹恵琉君

ありがとうございます。

次に、私の住む校区のことになりますが、一昨年の豪雨で避難所の校区公民館は川の横にあるため、大丈夫なのか、という声を聞いたことがあります。このことについて、市役所の考え方を教えてください。

○副議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

お答えいたします。繰り返しになりますが、行橋市は、もし災害が起きるとしたら川だろうと思っています。幸い地震は、恐らく大きな地震はないだろうと言われてますし、大体が平たんな土地ですので、山崩れも一部を除けばほとんど心配ないということで、災害に対する一番の心配は川だ、というぐあいに思っています。

延永校区で、実は川沿いにある公民館を指定していたんですけども、住民の方から、あまりにも川沿いで不安があるというようなことで長峡中学校のほうに替えたという経緯も現実にありますので、議員や議員のお友達、あるいはお知り合いの住んでおられる

地域で、現状の避難場所よりもこっちのほうが適切だよ、というようなことを話し合ったり教え合ったりしたら、そのときはぜひ市のほうにもお教えいただきたいなというふうに思っております。よろしく願いいたします。

○副議長 龍山咲良君

礒元議員。

○9番 礒元樹恵琉君

ありがとうございます。

最後の質問です。市は、私たち市民が災害時において、どのような考え方や行動をとることを最も期待されますか。市長のお考えを教えてください。

○副議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 田中純君

お答え申し上げます。災害時にあたって、まず一番重要なのは、もし万が一こういう災害が起きた場合は、自分はどうすればいいのか、そのシミュレーションを常日頃いろいろとやっていくことが、まず肝要かと思われま。もし川が切れたら逃げる、津波の心配はほぼないと言われてはいるんですけども、もし南海トラフ等、今騒がれています大きな地震の余波で津波が来たときは、どう逃げる、というようなシミュレーションをやっていただいくことが必要かと思われま。

そしてそれは私どもが、やはり市が出していますハザードマップを御覧になって、自分が逃げるときはこう逃げるんだ、というようなことをシミュレーションしていくこと、それが一番重要かと思われま。

そして災害時に最も重要なのは、的確な正しい情報を入手するというに尽きるんだらうと考えています。その観点からすると、なかなか情報を得にくい方、議員のような年齢の方々は、スマートフォンも上手に使いこなせるでしょうから、情報にアクセスする場合、非常にイージーなんですけれども、ある程度お年を召された方は、スマートフォンをうまく操れないというようなこともあろうかと思われまので、その際は、ぜひ機会があったら議員のほうからも広めていただきたいんですけども、テレビのdボタンというのがありますので、そのdボタンを押して情報を取るようによってみてください。これは誰でもできる。リモコンのdボタンを押すだけで、例えば行橋市の今の災害の状況はこんなふうになっています、というのが文字で画面に出ますので、お年寄りでもちゃんと分かるような内容になっていますので、ぜひそのdボタンを利用していただけるように広めていただけるとありがたいです。以上です。

○副議長 龍山咲良君

礪元議員。

○9番 礪元樹恵琉君

ありがとうございました。以上で質問を終わります。